

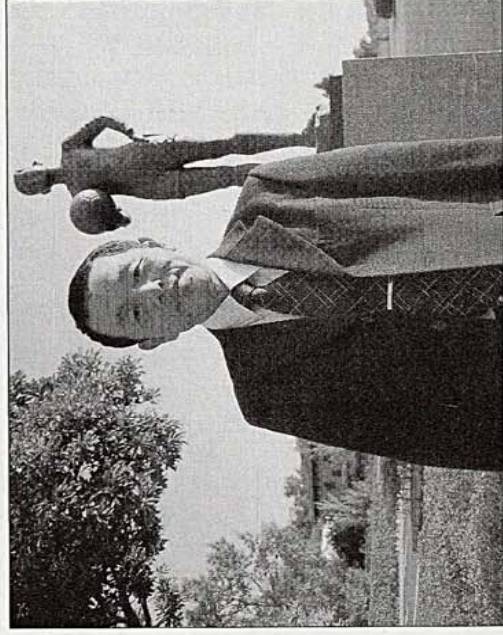
## 佐野市サッカーの改革者

「日本で一番不毛の地だったと思う」と渡辺氏は振り返る。佐野サッカー協会が設立されたのは、1982年。当時小学生のチームは2チームしかない状態だった。渡辺氏はその状況を打破しようと、各小学校を訪ね、各地にチームをつくっていった。そして、84年に市長杯（当時は市大会）を開催し、第1回大会には13ものチームが出場する

今シーズン、湘南に駒大から小林竜樹が加入し、小林成光、前田和也（ともに元FC東京）に続く、3人目の栃木県佐野市出身のJリーガーが誕生することとなった。「栃木県では最も多くJリーガーを輩出しているんです」と佐野サッカー協会事務局長・渡辺孝氏は胸を張る。だが、もともと佐野市はサッカーが盛んだった土地ではない。むしろ、

サッカーに対する熱心さを買われ、83年に市のサッカー協会事務局長に就任。少年サッカーの普及発展に力を注ぐことになる。渡辺氏の精神的な動きにより、佐野市のサッカーは確実に変化を見せていった。91年には、市内にサッカー場をつくるための署名活動を開始。わずか3カ月間で2712名の署名を集め、市に提出。市

こととなった。学生時代は卓球に熱中していたという渡辺氏。サッカーとの出会いは78年、事務職員として小学校に勤務したときだ。赴任した塩谷町の小学校では冬にサッカーをすることが指定されており、そこで初めてサッカーに触れてサッカーにはまると、子供たちとホールを蹴る日々が続いた。そして81年に佐野市に転居すると



## 渡辺 孝

（佐野サッカー協会事務局長）

「佐野を日本一のサッカーの街に」。その思いを胸に26年、佐野市サッカーを支えてきた男がいる。精神的な動きと斬新なアイデア、わずか2チームだった状態から、3人のJリーガーを生み出すに至った。

文・写真◎佐藤拓也

議会で全会一致で可決され、97年に佐野市サッカーの拠点となる天然芝のグラウンドが完成した。

そして、佐野市サッカーが激変したのは95年のこと。前年に佐野市で行なわれた池田誠剛氏（現浦和レッズ育成部門フイジカルコーチ）の講演に感銘を受けた渡辺氏が、池田氏に月に一度サッカー教室を開催してほしいと「タメもと」でお

願いし、快諾されたのであった。小学生から指導者まで毎回300名近くが集まり、日本のトップの指導を吸収したことで、佐野市サッカーのレベルは飛躍的に向上していった。その後、サッカー教室は前田泰樹氏（前水戸監督）、公文裕明氏（元平塚）、戸倉健二郎氏（元V川崎）と受け継がれ、13年経った今も変わらずに継続している。

わたなべ たかし / 1954年11月20日生まれ。栃木県矢板市出身。矢板東高卒業後、神奈川県立小中学校事務職員となり、現在は佐野市小中学校事務局長を務める。1978年に佐野市に転居。日本で最もサッカーの普及が進んでいた佐野市で普及活動に着手。多くのチーム設立に携わる。栃木県少年サッカー連盟理事長・安足少年サッカー普及委員長を歴任し、少年サッカー佐野サッカー協会事務局長として「日本一の地域協会」を目指している。現在は赤見中サッカー一部監督も務める。

「単発のサッカー教室はよくありますが、大事なのは地道に継続してやること。13年もの間、ここまでプロの指導者と呼んでやっている地域は佐野市以外ないと思いますね」と渡辺氏は誇らしげに語った。3人のJリーガーが、ともにこの指導から輩出されていることから見ても、この活動が佐野市サッカーの底上げに大きな影響をもたらしていることは間違いない。その後、佐野市内の全幼稚園・保育園にサッカーボールとミニゴールを配布し、草の根の普及にも尽力。さらに佐野市では、日本協会の規定では禁止されている、学校とクラブの両方での試合出場を許可するなど先進的な活動を次々と行なってきた。その源にあるのは「佐野市を日本一のサッカーの盛んな地区にしたい」という、渡辺氏の強い思いである。「佐野サッカー協会20年史」の中で渡辺氏はこう述べている。「日本中の地域協会が『日本一サッカーが盛んな街』を目指して競い合えば、20年後、30年後には日本はサッカー王国になっているはずです」渡辺氏の考え、そして佐野市の活動に日本サッカーが世界と伍すためのヒントが隠されているように思われる。26年間、絶えず前進し続けてきた佐野市サッカー。これからも渡辺氏とともにその歩みを進めていくに違いない。

2008.12.16 サッカーマガジン